

文教厚生委員会資料

教 育 委 員 会
令和4年6月13日・14日

一般事件案

- (1) 承認第2号議案 専決処分事件の報告及び承認について … P 1
 《令和3年度島根県一般会計補正予算（第15号）》

予算案

- (1) 第79号議案 令和4年度島根県一般会計予算（第2号） … P 3

(2) 第83号議案 令和4年度島根県一般会計予算（第3号） … P 6

報告事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について … P 9

(2) 教員不足の直近の状況と対策について … P 11

(3) 令和4年3月高等学校卒業者の進路状況について … P 15

(4) 古代歴史文化賞について … P 17

令和3年度補正予算（3月31日専決処分）の概要について （教育委員会）

令和3年度島根県一般会計補正予算（第15号）

1. 補正予算の概要

（単位：千円）

課名	補正前の額		補正額		補正後の額	
	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源
総務課	114,893	114,893	0	0	114,893	114,893
教育施設課	1,774,617	1,375,228	▲ 8,275	▲ 9,013	1,766,342	1,366,215
学校企画課	5,366,880	3,180,582	0	0	5,366,880	3,180,582
教育指導課	1,845,605	1,351,717	▲ 19,800	▲ 11,355	1,825,805	1,340,362
特別支援教育課	1,239,462	1,078,737	▲ 15,311	▲ 7,655	1,224,151	1,071,082
保健体育課	97,288	90,629	▲ 1,582	0	95,706	90,629
社会教育課	478,598	424,502	0	0	478,598	424,502
人権同和教育課	30,759	27,299	0	0	30,759	27,299
文化財課	1,293,584	829,004	▲ 7,862	0	1,285,722	829,004
福利課	218,344	177,869	0	0	218,344	177,869
事業費計	12,460,030	8,650,460	▲ 52,830	▲ 28,023	12,407,200	8,622,437
給与費計	71,247,137	58,156,607	0	0	71,247,137	58,156,607
合計	83,707,167	66,807,067	▲ 52,830	▲ 28,023	83,654,337	66,779,044

※給与費は全額総務課で計上

2. 課別事業別一覧

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
教育施設課		1,774,617	▲ 8,275	1,766,342	▲ 27,862	0	0	28,600	0	▲ 9,013
	1 高等学校校舎等整備事業費	267,366	0	267,366	(財源更正)					
	2 教育財産維持管理費	1,068,111	▲ 8,275	1,059,836						
	3 公立文教施設災害復旧費	215,100	0	215,100	(財源更正)					
教育指導課		1,845,605	▲ 19,800	1,825,805	▲ 8,445	0	0	0	0	▲ 11,355
	1 教育魅力化人づくり推進事業費	318,371	▲ 16,800	301,571						
	2 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業費	35,921	▲ 3,000	32,921						
特別支援教育課		1,239,462	▲ 15,311	1,224,151	▲ 7,656	0	0	0	0	▲ 7,655
	1 特別支援教育就学奨励事業費	213,741	▲ 15,311	198,430						
保健体育課		97,288	▲ 1,582	95,706	▲ 1,582	0	0	0	0	0
	1 学校体育指導力向上事業費	3,789	▲ 1,582	2,207						
文化財課		1,293,584	▲ 7,862	1,285,722	▲ 7,862	0	0	0	0	0
	1 埋蔵文化財調査センター事業費	417,325	▲ 7,862	409,463						

令和4年度5月補正予算案（5月26日上程分）の概要について （教育委員会）

令和4年度島根県一般会計補正予算（第2号）

1. 補正予算の概要

（単位：千円）

課名	補正前の額		補正額		補正後の額	
	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源
総務課	139,456	139,456			139,456	139,456
教育施設課	1,515,185	963,054			1,515,185	963,054
学校企画課	5,656,986	3,354,824	19,406	19,406	5,676,392	3,374,230
教育指導課	1,520,609	1,055,987			1,520,609	1,055,987
特別支援教育課	1,149,042	957,768			1,149,042	957,768
保健体育課	113,833	107,301	81,972	81,972	195,805	189,273
社会教育課	427,606	370,669			427,606	370,669
人権同和教育課	36,276	31,647			36,276	31,647
文化財課	1,365,832	743,910			1,365,832	743,910
福利課	231,141	187,544			231,141	187,544
事業費計	12,155,966	7,912,160	101,378	101,378	12,257,344	8,013,538
給与費計	70,620,148	57,506,583	0	0	70,620,148	57,506,583
合計	82,776,114	65,418,743	101,378	101,378	82,877,492	65,520,121

※給与費は全額総務課で計上

2. 課別事業別一覧

(単位：千円)

課名 事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
				国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
学校企画課	5,656,986	19,406	5,676,392	0	0	0	0	0	19,406
1 学校管理運営費	1,404,520	19,406	1,423,926	<ul style="list-style-type: none"> 寄宿舎における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、県立学校寄宿舎生を対象として新型コロナウイルス感染症に関する検査を実施 [拡充] 長期休業等の帰省も対象 					
保健体育課	113,833	81,972	195,805	0	0	0	0	0	81,972
1 学校部活動感染症対策事業費	10,692	81,972	92,664	<ul style="list-style-type: none"> 部活動における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、生徒及び引率教員を対象として新型コロナウイルス感染症に関する検査を実施 [拡充] 県外での大会等も対象 [新規] 県外で実施する練習試合等に参加する場合も対象 					

県立学校の寄宿舎及び部活動における新型コロナウイルス感染症への対応

1. 現状

- ・ 県では、新規感染者が継続して発生し、学校・部活動での感染も継続している状況
- ・ 部活動における新型コロナウイルス感染症対策として、県立学校では、3月下旬に部活動を休止（3/25～3/31）

2. 課題

- ① 長期休業中には帰省などで人の移動が多くあることから、感染拡大防止と早期の抑え込みが必要
- ② 部活動に関して、県高校総体（6月）、中国大会（6～7月）及び夏季インターハイ（7～8月）等主要な大会が開催予定
- ③ ②に向けて部活動の活発化が想定され、感染防止対策のさらなる対応が必要

3. 対応（案）

(1) 内容

寄宿舎生の帰省や部活動における新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、希望する生徒及び引率教員等を対象として、新型コロナウイルス感染症に関する検査を実施

（単位：千円）

項目	対象学校	現行制度との比較	事業費	積算
①寄宿舎生を対象とした検査【拡充】	県立学校	（現行） 就職・進学等に限定→（拡充後） 長期休業等の帰省も対象	19,406	@17,820円×1,089人分
②全国大会等に参加した生徒・引率教員を対象とした検査【拡充】	小学校、中学校、高校、特別支援学校及び国立の小中高に相当する学校	（現行） 全国規模の大会参加者→（拡充後） 県外での大会等参加者	28,512	@17,820円×1,600人分
③県外で実施する練習試合等に参加した生徒・引率教員を対象とした検査【新規】	県立学校 市町村立中学校	-	53,460	@17,820円×3,000人分
合計			101,378	

(2) 事業費 101,378千円（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金）

注1：予算成立までの間は、新型コロナウイルス感染症対策調整費と既定予算による対応

注2：①、③の私立学校分については、総務部で対応

令和4年度5月補正予算案（6月10日上程分）の概要について （教育委員会）

令和4年度島根県一般会計補正予算（第3号）

1. 補正予算の概要

（単位：千円）

課名	補正前の額		補正額		補正後の額	
	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源
総務課	139,456	139,456			139,456	139,456
教育施設課	1,515,185	963,054			1,515,185	963,054
学校企画課	5,676,392	3,374,230	74,901	74,901	5,751,293	3,449,131
教育指導課	1,520,609	1,055,987			1,520,609	1,055,987
特別支援教育課	1,149,042	957,768	25,231	25,231	1,174,273	982,999
保健体育課	195,805	189,273			195,805	189,273
社会教育課	427,606	370,669			427,606	370,669
人権同和教育課	36,276	31,647			36,276	31,647
文化財課	1,365,832	743,910			1,365,832	743,910
福利課	231,141	187,544			231,141	187,544
事業費計	12,257,344	8,013,538	100,132	100,132	12,357,476	8,113,670
給与費計	70,620,148	57,506,583	0	0	70,620,148	57,506,583
合計	82,877,492	65,520,121	100,132	100,132	82,977,624	65,620,253

※給与費は全額総務課で計上

2. 課別事業別一覧

(単位：千円)

課名	事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
学校企画課		5,676,392	74,901	5,751,293	0	0	0	0	0	74,901
	1 学校管理運営費	1,475,113	68,909	1,544,022	<ul style="list-style-type: none"> 原油価格高騰の影響を受け、生徒等の学習環境を確保するため、学校等における光熱費を増額 					
	2 実習船管理運営費	292,486	5,845	298,331						
	3 高等学校修学奨励費	2,601	147	2,748	<ul style="list-style-type: none"> 物価高騰の影響による食材価格等の高騰に対応し、これまで通りの栄養バランスや量を保った学校給食が実施されるよう、学校給食費を支援 					
特別支援教育課		1,149,042	25,231	1,174,273	0	0	0	0	0	25,231
	1 学校管理運営費	718,331	14,253	732,584	<ul style="list-style-type: none"> 原油価格高騰の影響を受け、生徒等の学習環境を確保するため、学校における光熱費を増額 物価高騰の影響による食材価格等の高騰に対応し、これまで通りの栄養バランスや量を保った学校給食等が実施されるよう学校給食費を支援 					
	2 学校給食等緊急対策事業費	0	10,978	10,978						

原油価格・物価高騰緊急対策

1. 原油価格高騰に伴う県立学校の光熱費等対策

(1) 現状、課題

原油価格高騰の影響により、学校管理運営費等が逼迫し、学校生活に波及する懸念

(2) 予算（案）

① 事業内容

感染症対策を引き続き徹底する中、原油価格の高騰により影響を受ける県立学校の光熱費（電気代・灯油代）及び水産実習船の燃料費について、増嵩分を予算措置

② 事業費 89,007千円（学校企画課：74,754千円、特別支援教育課：14,253千円）

（単位：千円）

区分		県立高校	特別支援学校	計	積算
光熱費	電気代	55,267	11,979	67,246	(R3.10月～R4.6月までの単価変動を元に推計した単価×R3使用量)－R3実績額
	灯油代	13,642	2,274	15,916	(R3.10月～R4.3月までの単価変動を元に推計した単価×R3使用量)－R3実績額
水産実習船燃料費		5,845	—	5,845	(R4.1月～5月の単価×R4使用量(見込))－R4当初予算額
計		74,754	14,253	89,007	

2. 物価高騰に伴う学校給食等の緊急対策

(1) 現状、課題

- ・ 特別支援学校及び松江工業高校（定時制）では、学校給食等を提供
- ・ 食材価格等が高騰し、食材の変更、地産食材の使用を控えるなどの対応により、栄養バランスとカロリーを保つよう工夫

(2) 予算（案）

① 事業内容

食材価格高騰が続き、献立が制限されたり、地産地消の推進など食育の観点から、学校給食として望ましくない状態にならないよう、給食費の保護者負担分を支援

② 事業費 11,125千円（学校企画課：147千円、特別支援教育課：10,978千円）

（単位：人、千円）

区分	提供方法	生徒等数	支援方法	事業費	備考
特別支援学校 12校	自校調理	193	保護者等に対する補助 (委任を受け、給食会計等へ支払)	1,900	※
	弁当給食	470		5,438	
	寄宿舎食	108		3,640	※
松江工業高校 (定時制)	弁当食	30		147	
合計				11,125	

※ R2年度実施の学校給食の1kcalあたりの単価と直近(R4.3月～4月)の1kcalあたりの単価の平均上昇率を1食あたり単価に乗じて算出

新型コロナウイルス感染症への対応について

1. 県高校総体等での感染症対策

県高校総体等での感染拡大を防止するため、島根県高等学校体育連盟、島根県高等学校野球連盟、島根県高等学校文化連盟に対し、島根県知事と教育長の連名により、各大会等における感染症対策（換気の徹底をはじめとする「三密」の回避、体調不良者出場可否の適切な判断、競技外の活動時の感染症対策）の徹底について一層の取組を5月17日付けで依頼

[参考]

中国地区や全国レベルの各主催団体（高体連、高野連、高文連）に対しても、5月17日付けで知事が同様の内容で要請

また、具体的な対策として、新型コロナウイルス感染症対策調整費により次の対応を実施

(1) 実施内容

- ① 島根県高等学校体育連盟、島根県高等学校文化連盟に対し、大会開催前及び開催期間中の生徒や引率教員、補助員等大会運営者に対する抗原定性検査に係る経費を県費10/10で補助

※なお、島根県高等学校野球連盟への補助は、同連盟で検査を実施しない方針となったことを踏まえ、県での直接執行に変更

[執行見込額（概算）] 49,000千円

- ② 大会を主催する島根県高等学校体育連盟、島根県高等学校野球連盟、島根県高等学校文化連盟、島根県知的障がい教育学校運動部活動連絡協議会に対し、消毒液や換気等に要する感染症対策のかかり増し経費を県費10/10で補助

[執行見込額（概算）] 14,300千円

- ③ 県立学校に対し、「密」を避けることを目的に、県大会等に参加する際の借上げバスを、県民の県内移動支援事業（地域振興部予算事業）を活用して、増車が行えるよう対応

※ 私立学校分については、別途、総務部で予算措置

[執行見込額（概算）] 9,480千円

(2) 執行見込額（概算）

72,780千円

2. 県立学校の部活動における対応（6月8日からの追加措置）

練習試合等もしくは大会等への参加については、いずれも、県内は通常の見扱いと見、県外については学校長が認めるもののみ可

県外における感染拡大地域で開催される練習試合等もしくは大会等への参加については、次のとおり対応

- ① 主催者及び開催地の自治体が示す感染症対策を確認した上で、改めて必要性を十分に検討し、学校として責任をもって参加の可否を十分に検討
- ② 参加する場合には、必要最小限の人数での参加とすること。また、万全な感染症対策を講じること
- ③ 帰県後、一定期間（7日程度）の健康観察と健康管理の徹底

3. 感染症対策に関するオンライン研修会の開催

健康福祉部との連携により、学校長等の感染症対策に携わる教職員等を対象に、感染症対策に関するオンライン研修会を開催

（1）開催日時

5月19日（木） 16:00～17:00

（2）対象

- ・ 対象団体：県立学校、高体連、高野連、中体連 等
- ・ 対象者：学校長、教頭、養護教諭、部活動顧問等、感染症対策に携わる者

（3）内容

- ・ 新型コロナウイルス感染症の概要、発生状況、対策、健康観察の重要性、検査の意義、発生時の対応（保健所の一般的な対応）
- ・ 県総体、地区野球大会における抗原検査の実施方法 ほか

教員不足の直近の状況と対策について

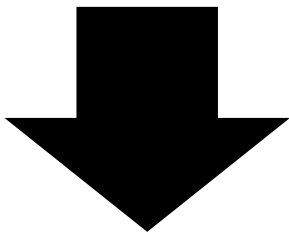
1. 公立学校における欠員状況の推移（教諭・講師）

4月1日以降、産休・育休等に伴い教員の必要数が増加しているが、それを上回る人材確保を進めており、4月1日現在で計32人であった欠員が、6月1日現在では計28人まで減少している。

（※）学級担任の欠員や学校単位での教員不在教科はない。また、学校全体で業務を分散できるように、欠員は主として大規模校に振り分けている。

〔令和4年4月1日現在〕

	1年期限付き任用	1年未満の短期任用 (産休・育休代替等)	計
小学校	8人	8人	16人
中学校	6人	2人	8人
高等学校	1人	7人	8人
特別支援学校	0人	0人	0人
計	15人	17人	32人



【4月1日～5月末の変動】

- + 教員の必要数増（産休・育休等）
計10人（小4、中3、高2、特支1）
- ▲ 新規の人材確保等
計14人（小4、中5、高5）

〔令和4年6月1日現在〕

（※）括弧内は、4月1日現在からの増減

	1年期限付き任用	1年未満の短期任用 (産休・育休代替等)	計
小学校	5人 $\left[\begin{array}{l} +0人 \\ \blacktriangle 3人 \end{array} \right]$	11人 $\left[\begin{array}{l} +4人 \\ \blacktriangle 1人 \end{array} \right]$	16人 $\left[\begin{array}{l} +4人 \\ \blacktriangle 4人 \end{array} \right]$
中学校	3人 $\left[\begin{array}{l} +0人 \\ \blacktriangle 3人 \end{array} \right]$	3人 $\left[\begin{array}{l} +3人 \\ \blacktriangle 2人 \end{array} \right]$	6人 $\left[\begin{array}{l} +3人 \\ \blacktriangle 5人 \end{array} \right]$
高等学校	1人 $\left[\begin{array}{l} +0人 \\ \blacktriangle 0人 \end{array} \right]$	4人 $\left[\begin{array}{l} +2人 \\ \blacktriangle 5人 \end{array} \right]$	5人 $\left[\begin{array}{l} +2人 \\ \blacktriangle 5人 \end{array} \right]$
特別支援学校	1人 $\left[\begin{array}{l} +1人 \\ \blacktriangle 0人 \end{array} \right]$	0人 $\left[\begin{array}{l} +0人 \\ \blacktriangle 0人 \end{array} \right]$	1人 $\left[\begin{array}{l} +1人 \\ \blacktriangle 0人 \end{array} \right]$
計	10人 $\left[\begin{array}{l} +1人 \\ \blacktriangle 6人 \end{array} \right]$	18人 $\left[\begin{array}{l} +9人 \\ \blacktriangle 8人 \end{array} \right]$	28人 $\left[\begin{array}{l} +10人 \\ \blacktriangle 14人 \end{array} \right]$

2. 教員不足の要因・背景

近年の大量退職や特別支援学級の増加、学校の抱える課題の複雑化・困難化を背景とした手厚い教員配置（県単独事業を含む。）などにより、毎年、多数の教員確保を行う必要がある一方で、県内人口の減少、教員志望者の減少等により、必要数に見合った教員のなり手を確保できない状況が続いている。

教員志望者減少の背景には、時間外勤務を含めた勤務環境への懸念も存在していると考えられることから、教員不足を解消するためには、教員確保に向けた取組と働き方改革を車の両輪として進めていく必要がある。

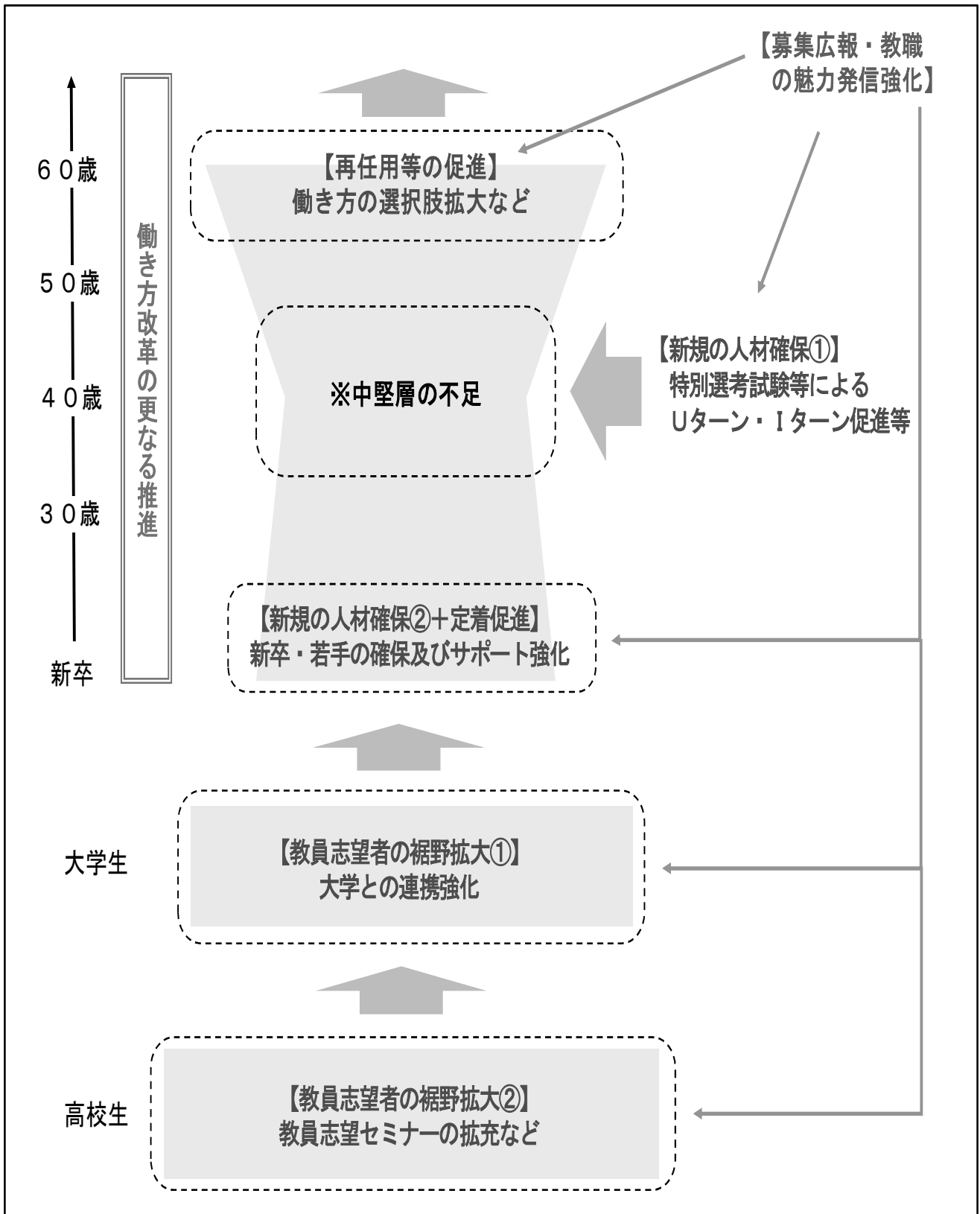
【参考】関連データ

	必要教員の主な変動要因			退職・採用・再任用				
	増要因		減要因	④ 退職者	新規採用者			⑧ 再任用者 (名簿登載者)
	① 特別支援 学級数 (対象児童 生徒数)	② 少人数学級 編制の県単 加配	③ 児童生徒数		⑤ 採用者 (名簿登載者)	⑥ 受験者数	⑦ 倍率 (名簿登載者)	
H13	367 (609)	0	93,019	206	98 (100)	1,497	15.3 (15.0)	0
H23	492 (1,059)	57	75,006	188	159 (167)	1,220	7.7 (7.3)	23 (23)
H24	499 (1,069)	43	73,348	235	156 (166)	1,218	7.8 (7.3)	31 (41)
H25	511 (1,097)	48	72,363	235	164 (167)	1,152	7.0 (6.9)	44 (54)
H26	504 (1,129)	98	71,379	263	226 (233)	1,180	5.2 (5.1)	50 (52)
H27	524 (1,184)	127	70,335	259	225 (230)	1,251	5.6 (5.4)	81 (86)
H28	537 (1,272)	175	69,697	294	209 (216)	1,204	5.8 (5.6)	133 (141)
H29	534 (1,306)	179	68,858	290	216 (216)	1,184	5.5 (5.5)	168 (198)
H30	554 (1,468)	193	68,156	303	245 (264)	1,142	4.7 (4.3)	203 (242)
R1	578 (1,527)	198	67,565	304	265 (278)	998	3.8 (3.6)	271 (300)
R2	614 (1,672)	179	67,031	316	260 (284)	1,042	4.0 (3.7)	307 (339)
R3	617 (1,783)	136	66,409	363	280 (302)	906	3.2 (3.0)	379 (406)

※①～③は、5月1日現在の数値、④は当該年度末の数値、⑤⑧は翌年度4月1日の数値

3. 教員確保に向けた取組

【全体像】



【具体的な取組】

(1) 年度内の欠員補充

- ① 定年退職者等への再度の働きかけ
- ② 募集広報等の強化

(2) 欠員等が生じている学校現場の負担軽減

- ① 運用緩和（例：主幹教諭の授業時間数の制限撤廃）
- ② 教育委員会による調査等の簡素化・削減（例：加配関係資料）
- ③ 欠員等が生じている小中学校等への「緊急校務支援員」の配置（全額県費）
 - ・対象校：欠員のある学校及び常勤講師の代わりに非常勤講師を配置している学校
 - ・勤務時間数：1日8時間×週5日×35週 ※総時間数の範囲で柔軟な配置可
（非常勤講師を配置している場合はその配置時間数を除く）
 - ・報酬単価：1,000円/時間（期末手当、交通費支給等もあり）

(3) 来年度以降の欠員ゼロに向けた対応

- ① 再任用者等の確保（大量退職の影響緩和）
- ② 新規の人材確保に資する教員採用試験の見直し・実施
 - ・一般選考試験（夏～秋）の募集人数：312人（前年+30人、過去最大）
 - ・特別選考試験（GW、県外現職教員等、面接試験のみ）
：受験者24人、合格者17人（小11人、中4人、特支2人）
（Uターン11人、Iターン5人、県内経験者1人）
- ③ 教員志望者の裾野拡大（県内大学との連携、高校生対象の教員志望セミナー実施など）
- ④ 募集広報・教職の魅力発信強化（令和4年度当初予算：10,255千円）
（※）都会（特に東京）の退職教員のIターン促進など、ターゲットを絞った対策も実施
- ⑤ 採用前後のサポート強化（新規採用者等の定着促進）
- ⑥ 教員籍の行政勤務者（指導主事等）の配置の在り方検討 など

(4) 働き方改革

- ① 学校現場の負担軽減（調査等の削減・簡素化、会議・研修のオンライン化など）
- ② 令和4年度実施事業（外部人材の配置及び効果的な活用、モデル校での研究実践、学校内での働き方改革のリーダー役養成（新規）、高校寄宿舎における外部舎監の配置促進（拡充））
- ③ 重点期間（令和元年度～3年度）における取組検証及び更なる対策の検討

令和4年3月高等学校卒業者の進路状況について
(県立・市立・私立の全日制、定時制高校)

1. 進路状況の年度別推移

※諸事情による未定者は除く

年度	卒業 者数	進学		就職	就職		進学 就職計		未定	
		県内	県外		県内	県外	県内	県外		
R元	5,952人	4,171人 (70.1%)	1,232人 2,939人	1,460人 (24.5%)	1,095人 75.0%	365人 25.0%	5,631人	2,327人 41.3%	3,304人 58.7%	292人 進学281人 就職11人
R2	5,837人	4,255人 (72.9%)	1,341人 2,914人	1,246人 (21.3%)	975人 78.3%	271人 21.7%	5,501人	2,316人 42.1%	3,185人 57.9%	280人 進学263人 就職17人
R3	5,570人	4,127人 (74.1%)	1,273人 2,854人	1,138人 (20.4%)	893人 78.5%	245人 21.5%	5,265人	2,166人 41.1%	3,099人 58.9%	268人 進学254人 就職14人

2. 進学状況

() は令和3年3月の数値

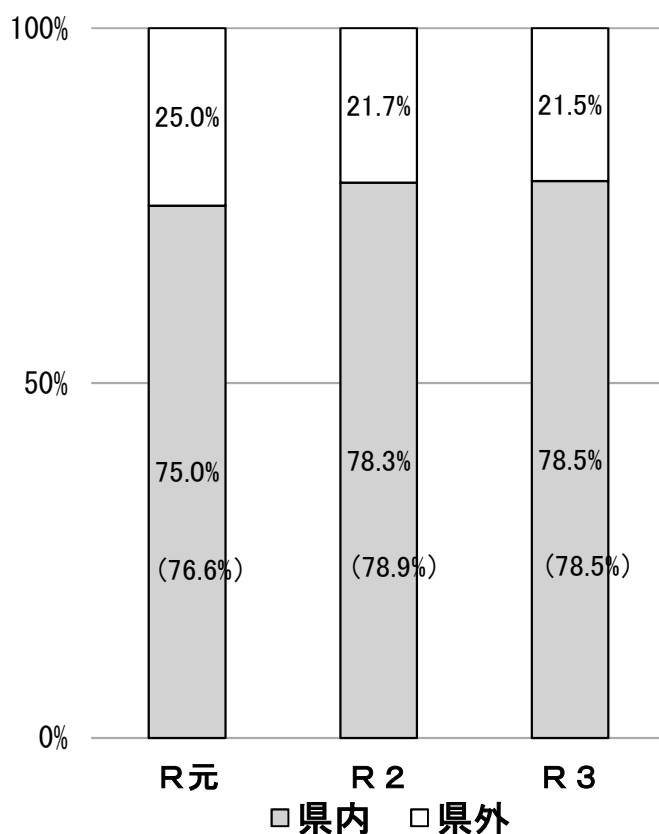
進学区分		人数			割合		
		県内	県外	合計	県内	県外	全体
四年制大学	国公立	437 (441)	566 (599)	1,003 (1,040)	43.6% (42.4%)	56.4% (57.6%)	24.3% (24.5%)
	私立		1,484 (1,406)	1,484 (1,406)		100.0% (100.0%)	35.9% (33.0%)
	計	437 (441)	2,050 (2,005)	2,487 (2,446)	17.6% (18.0%)	82.4% (82.0%)	60.2% (57.5%)
短期大学	国公立	64 (61)	8 (19)	72 (80)	88.9% (76.3%)	11.1% (23.8%)	1.7% (1.9%)
	私立	29 (39)	114 (173)	143 (212)	20.3% (18.4%)	79.7% (81.6%)	3.5% (5.0%)
	計	93 (100)	122 (192)	215 (292)	43.3% (34.2%)	56.7% (65.8%)	5.2% (6.9%)
専修学校		639 (701)	660 (712)	1,299 (1,413)	49.2% (49.6%)	50.8% (50.4%)	31.5% (33.2%)
その他(高専編入・留学・ 公共職業能力開発施設)		104 (99)	22 (5)	126 (104)	82.5% (95.2%)	17.5% (4.8%)	3.1% (2.4%)
合計		1,273 (1,341)	2,854 (2,914)	4,127 (4,255)	30.8% (31.5%)	69.2% (68.5%)	100.0% (100.0%)

3. 就職の状況

年度	卒業生数 (人)	就職希望者数(人)			就職希望者 の割合	就職内定者数(人)			内定率	未内定 者数(人)
		県内	県外	小計		県内	県外	小計		
R元	5,952	1,105	366	1,471	24.7%	1,095	365	1,460	99.3%	11
R2	5,837	983	280	1,263	21.6%	975	271	1,246	98.7%	17
R3	5,570	903	249	1,152	20.7%	893	245	1,138	98.8%	14

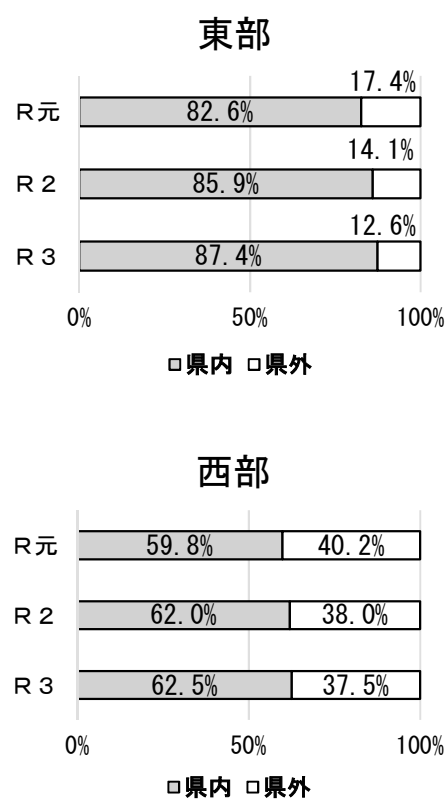
【参考】

1. 就職内定者の県内、県外別割合



※()内は公立高等学校における割合

2. 地域別就職内定者の県内、県外別割合



〔県内就職の状況〕

1. 県全体

県内就職内定者の割合は、対前年度比で、令和2年度が2.3ポイントの増、令和3年度は0.2ポイントの増となり、増加傾向が続いている。

2. 地区別

県内就職内定者の割合は、令和3年度は、対前年度比で、東部地域は1.5ポイントの増、西部地域は0.5ポイントの増、隠岐地域は1.9ポイントの減となった。

古代歴史文化賞について

平成25年度より奈良県などと5県共同で実施してきた古代歴史文化賞は、10周年を迎える令和4年度（第8回）をもって終了する。

1. 事業概要

(1) 目的

古代歴史文化に関して学術的基盤に立ちながら、分かりやすく書かれた書籍を表彰することを通して、国民の古代歴史文化への関心を高め、豊かな歴史文化に恵まれた共同実施5県の観光誘客の拡大を図る。

(2) 内容

- ① 島根県・奈良県・三重県・宮崎県・和歌山県による共同実施
- ② 大賞1作品、優秀作品賞4作品、特別賞を決定
- ③ 表彰式の実施
- ④ 関連記念イベントの実施（東京・松江会場等でのシンポジウム、書店フェアほか）

2. これまでの事業成果

- ① 大賞7作品のうち6作品の販売部数が合計12万部を超えるなど、広く古代歴史文化の魅力を発信した。（1作品は販売部数非公表）
- ② 古代歴史文化賞への研究者や出版社の関心が高まり、研究者が目標とする賞となった。
- ③ 表彰作品・表彰式・関連記念イベント等を通して、共同実施5県の知名度向上が図られた。
- ④ 島根県では「神々の国しまね」プロジェクトで増加した観光入り込み客数の維持に一定の効果があった。

3. 今後の対応

- (1) 古代歴史文化賞は、事業開始から10年を経過することから、これを機に終了する。

※ 令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。

- (2) 古代歴史文化賞の終了後も、奈良県など、他県との連携事業は継続し、古代歴史文化賞の成果を活かした情報発信を共同で行うとともに、知事部局とも連携して観光誘客の拡大に努める。

【参考】第8回古代歴史文化賞の今後の主な日程

令和4年11月	2日（水）	受賞作決定・表彰式	帝国ホテル東京
令和5年	1月21日（土）	受賞記念イベント	奈良県文化会館
	1月29日（日）	受賞記念イベント	島根県民会館

古代歴史文化賞受賞作

古代歴史文化賞

第1回	<p>古代国家はいつ成立したか 藤田社(岩波書店)</p>	<p>しまね賞 古代に行つた男ありけり 関和彦(今井出版)</p>	<p>なら賞 道が語る日本古代史 近江俊孝(朝日新聞出版)</p>	<p>みえ賞 古事記はいかに 読まれてきたか 稲垣浩(岩波書店) 斎藤英富(吉川弘文館)</p>	<p>みやぎ賞 古事記を 読む女 三浦佑之(筑摩書房)</p>
-----	-----------------------------------	---	---	--	---

第2回	<p>大賞 飛鳥の木簡 古史の新たな説明 市大樹(中央公論新社)</p>	<p>準人賞 若い人に語る 奈良時代の歴史 寺崎保広(吉川弘文館)</p>	<p>優秀作品 古墳からみた 倭国の形成と展開 白石太郎(教文館)</p>	<p>優秀作品 女帝の古代日本 吉村武彦(岩波書店)</p>	<p>未盗掘古墳と天皇陵古墳 松木武彦(小学館)</p>
-----	--	---	---	--	----------------------------------

第3回	<p>大賞 アイヌ学入門 瀬川拓郎(講談社)</p>	<p>一瓦一説 瓦からみる日本古代史 森郁夫(淡文社)</p>	<p>優秀作品賞 東国から読み解く 古墳時代 若狭 徹(吉川弘文館)</p>	<p>優秀作品賞 平安人の心で 「源氏物語」を読む 山本淳子(朝日新聞出版)</p>	<p>万葉集と日本人 読み継がれる千一百年の歴史 小川環彦(KADOKAWA)</p>
-----	------------------------------------	---	--	--	---

第4回	<p>大賞 国際交易の古代列島 田中史生(KADOKAWA)</p>	<p>神と死者の考古学 神と死者の考古学 古代のまじりと信仰 笹生 衛(吉川弘文館)</p>	<p>優秀作品賞 日本人は どこから来たのか? 海部陽介(文芸春秋)</p>	<p>優秀作品賞 ほとけを造つた 人びと 止利信隆から遠藤・快慶まで 根立朋介(吉川弘文館)</p>	<p>六国史 日本書紀に始まる古代の「正史」 遠藤歴太(中央公論新社)</p>
-----	--	--	--	--	---

第5回	<p>大賞 タネをまく 縄文人 小畑弘己(吉川弘文館)</p>	<p>海に向こうから見た倭国 高田賢太(講談社)</p>	<p>古建築を 復元する 過去と現在の架け橋 海野 聡(吉川弘文館)</p>	<p>優秀作品賞 神話で読みとく古代日本 古事記・日本書紀・風土記 松本直樹(筑摩書房)</p>	<p>『日本書紀』の呪縛 吉田一彦(集英社)</p>
-----	---	----------------------------------	--	--	--------------------------------

第6回	<p>大賞 儀式でつたうやまと歌 木簡に書かれた 犬飼 隆(瑞書房)</p>	<p>古墳の古代史 東シヤのなかの日本 森下章司(筑摩書房)</p>	<p>優秀作品賞 日本神話はいかに 描かれてきたか 近代国家が求めたイメージ 及川智早(新潮社)</p>	<p>優秀作品賞 文明に抗した 弥生の人びと 寺前直人(吉川弘文館)</p>	<p>倭の五王 五位継承と5世紀の東シヤ 河内春人(中央公論新社)</p>
-----	--	--	--	--	---

第7回	<p>大賞 「古今和歌集」の 創造力 鈴木 宏子(NHK出版)</p>	<p>埋もれた都の防災学 都市と地震災害の2000年 釜井俊孝(京都大学学術出版会)</p>	<p>優秀作品賞 古代日中関係史 倭の五王から遣唐使以降まで 河上麻由子(中央公論新社)</p>	<p>優秀作品賞 縄文時代の歴史 山田廣弘(講談社)</p>	<p>風土記 日本人の感覚を読む 橋本達之(KADOKAWA)</p>
-----	---	--	--	--	---

— 古代^{むかし}を知ることは、現在^{いま}を知ること —

古代の歴史文化に関する優れた書籍を表彰します。

第8回

古代歴史文化賞

この賞は、最近発行された書籍のうち、日本の古代世界を学術的基盤に立ちながら一般読者にとってわかりやすく書かれたものを対象としています。

■大賞一作品、優秀作品賞四作品

※推薦委員による推薦図書の中から、選定委員会にて受賞作が決定されます。

■受賞作品の発表および表彰式 令和四年十一月二日 帝国ホテル東京にて

■表彰記念イベント 令和五年一月二十九日 鳥根県民会館中ホールにて

※新型コロナウイルスの今後の感染拡大の状況により、イベントなどを延期する可能性があります。



古代歴史文化賞は、古代の歴史文化に関する優れた書籍を表彰することを通し、国民の歴史文化への関心を高めることを目的として、平成25年に創設されました。

島根県／奈良県／三重県／和歌山県／宮崎県

大賞
古代歴史文化賞



鈴木宏子 著
「古今和歌集」の
創造力
(NHK出版)



日本最初の勅撰和歌集「古今和歌集」を、「こころ」「ことば」「型」のキーワードと、この時代きっての歌人で名編集者でもある紀貫之の狙いから読み解き、そこに現代に通じる日本人の美意識を見いだした作品。

優秀作品賞



釜井俊孝 著
埋もれた都の防災学
都市と地盤災害の2000年
(京都大学学術出版会)

地質という私たちの「足もと」に注目し、開発される土地と開発する人間の歴史を紐解くことを通して、自然と折り合いをつける防災のヒントを提供してくれる作品。

優秀作品賞



河上麻由子 著
古代日中関係史
倭の五王から遣唐使以降まで
(中央公論新社)

倭の五王の時代の5世紀から遣唐使派遣停止後の10世紀までの日中交渉の歴史を、アジア全体を視野に見渡し、古代日本の対外交渉の「常識」を再検討した作品。

優秀作品賞



山田康弘 著
縄文時代の歴史
(講談社)

最新の研究成果から、画一的ではなく、列島内で地域差、時期差をもちつつ展開した縄文文化の多様性を述べ、従来の縄文「ユートピア」論とは異なる新見解を説いた作品。

優秀作品賞



橋本雅之 著
風土記
日本人の感覚を読む
(KADOKAWA)

「風土記」を地方目線で多様な文化や村里レベルの歴史・伝承を記す地誌と位置づけて、「古事記」や「日本書紀」とは異なる「風土記史観」を提唱した作品。

※令和2・3年度についてはコロナウイルス感染症の影響により、賞を中止しました。

古代歴史文化賞は、日本の古代に関して、学術的基盤に基づきながら、一般読者にとって分かりやすくおもしろい書籍を表彰するものです。

この賞は、古代歴史文化に関わる諸分野、たとえば、考古学、歴史学、文化人類学、民俗学、文学、美術史、建築史など、幅広く対象としています。

過去の受賞作品については、古代歴史文化賞ホームページ (<https://kodaihistory.jp/>) をご覧ください。